

令和7年度第6回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和7年度第6回清瀬市社会教育委員の会議が令和8年2月9日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和8年2月9日（月）午前10時から12時00分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 市民協働ルーム（対面開催）

出席委員 （対面参加）
西田副議長、渋谷委員、松山委員、玉置委員、大野委員
（オンライン参加）

倉持議長

欠席委員 永嶋委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、西原係長、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、倉持議長はオンライン参加・永嶋委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

- （1）懇談会における意見交換を受けての今後の取組について
- （2）清瀬市生涯学習基本方針の更新について

3 報告等

- （1）令和8年度の会議日程について

5 閉会

（事務局）

本日倉持議長がオンラインでの参加となり、永嶋委員は欠席のご連絡をいただいている。

（倉持議長）

それでは、令和7年度第6回清瀬市社会教育委員の会議を始める。本日は残念ながら画面越しで失礼させていただく。

まず初めに、議題1の懇談会における意見交換を受けての今後の取組についてということで、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

12月の会議の後、教育委員との懇談会で「不登校支援のネットワークづくりについて」を議題にし、改めてその重要性が双方で確認できたと思う。

資料1をご覧いただきたい。これまで議論された内容と成果について、提言から要点をまとめ、次の2点が必要だと確認できた。

1点目が、多様な不登校支援と居場所づくりの充実を図っていくことが必要だということ。その中でも、一人ひとりの子どもの状況が違うので、子どもの状況に応じた個別対応が重要で、地域や教育委員会、学校など、様々な主体がそれぞれの特徴を活かした支援を子どもたちに提供する必要があるのではないかという議論ができた。

また、清瀬市の地域の実情を申し上げますと、どちらかというと西部地域に支援団体が多く集まっている印象があり、地域によって支援の格差があるのではないかということが分かった。そのため、市全体での支援の拡充が必要だということについても確認ができた。

また、市内住民の参加促進を目標に掲げているが、市内でこのような取り組みがあることを広く認知していただき、支援に積極的に関わっていただくための人づくりや、次の担い手の育成にも今後力を注いでいくべきではないかと考えている。そのため、市全体での多様な不登校支援や居場所づくりの充実を掲げている。

2点目が、去年の8月に不登校支援ネットワークフォーラムを開催したが、1回きりで終わるのではなく、継続的に実施していくことが必要ではないかということで、継続実施についても提案させていただいた。前回のフォーラムでは、行政・市民・地域団体などの関係者間でのフォーラムだったが、ネットワークづくりの意義などについて、共通認識を深められたと思っている。

また、持続可能な活動基盤を作っていくことが必要だという意見も、このフォーラムの中で出てきた。前回は第1回目の開催ということで、それぞれの主体の方たちの顔つなぎといった、スタートアップのような位置付けの会になったと思う。今後はそれをどう深化させていくのか課題であるが、継続実施を希望する参加者の声も多かった。これらの声と懇談会で出た意見も踏まえ、次年度に向けてどう進めていくかについては、教育長から「教育委員」と「社会教育委員」とのフォーラムの合同開催の提案があった。また、次回もぜひ学芸大のお力を得られると大変ありがたいと考えている。

今後の課題については、懇談会や不登校支援ネットワークフォーラムでも話題に上がっていた不登校を経験された方や、その保護者の方からの「実体験」を聞く機会があると良いという意見もあった。また、ネットワークの相互理解や拡充のための情報伝達のツールや手法を、どのように行うのかという課題がある。

また、地域の多様な主体が連携する持続可能な支援の仕組みづくりの検討と挙げている。このフォーラムを継続して実施していく上で、ネットワークづくりを広げていくことになるが、それをどのように運営していくのかについても検討する必要がある。それが今後の課題として挙げられている。こちらについても、社会教育委員の会議として、不登校支援ネットワークづくりのゴールイメージを、課題解決のために描いていく必要があるため、どのような方向性なのか、皆さんと意見交換をしたいと思っている。

これまでの議論を踏まえ、多様な主体同士のネットワークを広げ、つなげたり、連携協

働したりすることが最終的なゴールイメージなのかと考えているが、それを目指していくためには、次のフォーラムはどのような内容で、どのようなスタイルで実施するのか。今回のフォーラムでは、グループディスカッションというやり方で実施したが、そのやり方で今後行くのかどうかについても検討したい。

また、今回は教育関係に携わる方を中心に教育委員会が主体で開催したが、教育だけではなく、福祉分野にも情報共有をし、協力連携を図っていく必要があると思っている。

このことについて、不登校支援ネットワークづくりのこれまでの経過と、事務局でまとめた次年度に向けての課題となる。

(倉持議長)

12月の懇談会では教育委員とも意見交換ができ、方向性としてはぜひ継続し、充実化させていこうという問題意識の共有ができた。今年度の取り組みを踏まえて、次年度どのように展開していくのか、アイデアやご意見を出し合っていたらと思う。

学芸大の社会連携事業については、規定によると、単年度となり、連続して申請ができないとあった。お金は準備できないかも知れないが、人は準備できるかも知れないので、何かそのような工夫で持続可能な支える仕組みも考えなければならない。

次のフォーラムでは、どのような内容やスタイルで、こういったゴールイメージを目指して実施するのかということや、そのフォーラム自体の運営をどこで、どのような母体で実施するのかなども検討する必要がある。教育委員との合同開催でのフォーラムは是非やりたいと思うが、支援は教育の分野だけではないという意見もあり、皆さんからご意見やご感想、アイデアなどをいただければと思う。

(事務局)

補足だが、昨年開催した際は10月の任期までに一度まとめを行いたいということだったので、学生や先生方が集まりやすい8月を目指して、新年度に入ってすぐに取り掛かった。次年度については任期中なので、フォーラムを開催する時期なども含めて時間的な余裕は少しある。ただ、今年の12月に教育委員との懇談会があるので、そこで一つ成果報告ができれば良いと思っている。年内開催を目指して準備を進めていきたい。

(倉持議長)

昨年度は確か、来年度の10月までに開催しようということで、その前年度の社会教育委員第4ブロック研修会の経験で枠組みを既に作っていたこともあり、そのスタイルでやってみようというところから始め、誰に登壇してもらうかについては大分議論をした。昨年の開催日は夏だったが、夏休みで良かったのか、それとも、もう少し別の時期が良かったのか等も含めて検討したい。

それでは、西田副議長から順番に一言ずつ、ご意見やご感想、アイデアなどをお願いできればと思う。

(西田副議長)

確か、開催時期が市の何かの行事と重なっていた記憶がある。そのため両方に来てくださる方や、それが故に来られない方もいたので、そのあたりは調整して時期を決めるのが良いと思った。

また、今後の課題で挙がっている、不登校経験者や保護者からの実体験を聞くという話については、対象の方はたくさんいると思うが、その不登校という括りの中でも、登校の行き渋りが始まった方から、長年の不登校という方もいる。色々な環境や状況の不登校の方がいるので、そのグラデーションに応じて、何パターンか対象の方を見つけられると良いと思っている。

ウイズアイの事業で、不登校の経験者である社会事業大学の方にご講演いただいたこともあるが、やはりその話を聞くことで、保護者の方はとても救われていたり、将来の我が子の未来像が見られたりすることもあるので、これはとても実現させたいことのひとつだ。

(倉持議長)

当事者や家族の話を聞くということは、とても良さそうだ。

(渋谷委員)

実施時期として、学校側としては、不登校や欠席者が多くなるのが5月末あたりから6月にかけて。9月の始めや秋の行事などは頑張ってきているが、その後9月下旬から不登校が増えるので、その前に予防策として、フォーラムの実施があると良いと思う。不登校の方が今悩んでいることに対して、何か悩みが解決できるようなヒントになるものや、このようにして解決してきました、今このように取り組んでいますなどというような実体験を聞けると、そうやって問題解決して乗り越えてきたのだなど、何か感じ取ってもらえることがあるかも知れないので、そのような経験談を聞くのも良いと思っている。

また、この間のフォーラムで色々な居場所があるということが分かったので、それを広めたい。私の小学校でも、特別支援の子どもたちの今後の就労などについて、そのような子どもたちを受け入れてくれる高校などを呼んで、進路指導ではないが、合同説明会のようなものを開催している。保護者の方から、知的の子どもにもこのような高校があって、自分の学べるところがあるのだということを知ることができて良かった。また来年度も実施してくださいという意見もいただいた。せっかく色々な所で取り組んでいるので、このような良い場所もあると、一斉にお知らせできる説明会のような紹介ブースがあるフォーラムでも良いかと思っている。

(倉持議長)

学校の話では不登校が増える時期が特に関心が高まるということもあるので、実施時期についてはそこも踏まえて検討していきたいと思う。

(松山委員)

ネットワークづくりのゴールのイメージについて、ネットワークを作ることが確かにゴールだと思うが、結局どのようなネットワークを作るのかということが大事だと思う。今回のフォーラムでも分かったことだが、不登校支援という言葉で一括りにしても、各団体が目指していることも大きく違う。例えば、学校復帰を促すことを目的とする団体もあれば、学校に行くか行かないかという選択そのものよりも、子どもが自立していく過程を支援することを重視する団体もある。また、行政に近い組織として活動する団体もあれば、学校に近い組織として支援を行う団体もある。このように、支援の中身やあり方には様々なグラデーションがある。不登校の子どもたちに困難のグラデーションがあると同時に、

その支援にもグラデーションがあり、それをいかに上手くマッチングしていくのかということも大切な気がしている。

ネットワーク作りにおいては、多様な支援の分類があり、不登校の支援には様々なバリエーションがあり、そのバリエーションの中で、清瀬のこの団体はこれに強みがある、これを大事にしているなど、マップ作りが出来てくると、コーディネートをする上で、ここで困難を抱えている子はここにつなげると良いだろうといったコーディネートがし易くなる。それぞれの団体が強みを活かして支援をしていくような体制が出来ていくのかと思う。行政ができる支援はそのような面だと私は考えている。

また、当事者の話を聞く機会の創出というのは非常に良いと感じている。不登校を経験し、現在はしっかりと自立して生活されている「不登校サバイバー」の方々やその保護者の方々の成功体験を伺うことは、非常に意義のあることだと考えている。不登校という悩みの途上にいる方々にとっては、こうした話を聞くことが難しい場合もあるかも知れない。しかし、不登校の経験を経てこられた方々の「今こうして前向きに生きている」という話を聞くことは、同じような悩みを抱えている方々にとって大きな励みとなるのではないかと。そのような機会を作ることは非常に大事だと思っている。

年に1回のイベントを通して不登校やその課題について考える機会を持つことも非常に大事だと思うが、日常的に困ったときにお互いが話し合える場をもっと増やしていくことも大事だと感じている。それは多分、行政が「やってあげる」姿勢を前面に出すのではなく、むしろそのような場を「市民とともに作り上げていこう」という働きかけをする方が、市民の間で自然と支え合う機運が生まれていくと思う。そこが大事だと思っている。

そのためには、こうした場を育む視点を持ち、多くの市民が主体的に関わりたくなるような発信や、住民参加を促進するような働きかけに繋がることを意識していくことが重要だと考えている。

また、不登校や課題に直面した当事者の体験談を共有し、それをきっかけに具体的な活動が生まれていくような働きかけも意識した仕組みづくりが求められると思っている。現在、具体的な案として何か挙げられるものは無いものの、今後目指すべき方向性としては、連携と支援の輪が生まれるように繋げていくとした考えが重要であると感じている。

(倉持議長)

色々と新しい視点からのアイデアもいただき、支援の案内という発想もとても面白い。それだけ多様な支援の選択があるということが少し見えてきた。それを踏まえた上で、そういった支援の選択肢を明確にマーキングできることや、そのような場を育てていく視点が非常に大事だと感じた。

(玉置委員)

まず清瀬市では、不登校の理由を分析し、具体的なデータを取りまとめているのか。各学校の不登校の理由が明確になれば、先ほど松山委員も指摘されたように、支援を受ける側のニーズに合わせた適切な支援をマッチングし易くなると思う。不登校の理由として、清瀬市ではどのような要因が多いのか。その分析によって、居場所づくりが必要なのか、あるいは学校へ通うための直接的な支援が必要なのかといった方向性が見えてくる。まずは、各学校で把握している不登校の理由のデータを知りたい。

(事務局)

当課にはその詳細情報は無いが、教育指導課が学校からの情報を取りまとめて管理し、必要な支援を行っている。この議論に必要な資料については、教育指導課より差し障りのない範囲で提供してもらえると考えている。

(玉置委員)

以前、不登校経験者の話を聞きたいという意見があった際にも、個人的な問題があるため難しいという結論に至った。現在、小中学生で不登校の子どもを持つ保護者についても、なかなか外出が難しい、顔を出すことに抵抗があるといった状況があるかと思う。ただ、先ほど述べたように、不登校経験者の成功体験を聞き、明るい未来を感じさせるような話を伝えられる方に来ていただくことが良いと私自身は考えている。

その一方で、来ていただく方が決まった際に、現在不登校の子どもを持つ保護者をどのように呼び込むかという課題も出てくると思う。そのため、まずは清瀬市における不登校の現状についての情報を把握したいと考えている。

(倉持議長)

フォーラムを開催する際には、学校教育の職員から差し障りの無い範囲で清瀬市の現状を提供いただいた。不登校の理由については、行き渋りの層が比較的厚いという現状があった。フォーラムの開催に関しては、まず現状をしっかりと把握した上で進めるべきだというご意見をいただいた。

(大野委員)

不登校経験者や保護者からの実体験を聞くという意見を伺った際、ふと思い出した同期が二人いる。いずれの方も現在は社会人として立派に働いており、つい先日、小学校の同窓会のような集まりを開いたのだが、一人が参加してくれた。その方は現在イラストレーターとして活躍されていて、中学校の初めの頃は登校していたものの、1年生の2学期くらいからは学校にはほとんど来ていなかった。

しかし、校内の別室登校などの支援を受けながら、学校生活を送られていた。当時のその様子を見ていたこともあり、不登校経験者のリアルな声を聞くことがいかに大切かと考えている。

もう一人の方はカメラが好きで、同窓会の時ではないが、二十歳の集いの時にカメラマンとして協力して欲しいという形でお会いしたが、本当に好きなことに没頭するタイプの方だった。当時は学校にはあまり来ていなかった印象がある。そのような方々が、今は社会人として頑張っているのも、それぞれの成功体験や心境の変化、どのようなきっかけで成長できたのかなど、そのようなことも聞けたら非常に面白いのではないかと思う。直接来てもらうハードルが高い場合でも、アンケート形式で意見を聞くことでも十分に意味があるのではないかと感じている。

(倉持議長)

とても良い具体的な情報をいただいた。アンケートを実施するにあたり、誰を対象にし、どのように行えばよいのかが課題だ。対象者が既に卒業しているため、その点をどうクリアするかを検討する必要がある。

(大野委員)

不登校者一覧などの資料は無いと思うので、本当に友達の友達というような、知り合いを辿る感じにはなってしまうと思うが。

(倉持議長)

例えばそれは、オンラインなどでアンケートを作り、清瀬の同級生ネットワークでそのリンクを送り合ってもらい、人を集められるかも知れないという話か。

(大野委員)

ただ、結構内輪な感じにはなってしまうと思う。どこまで広げられるかは分からない。

(倉持議長)

例えば、それが5人や10人でも、実体験が集められるというのはとても大きいことだと思う。どのようなところで躓いて、どのようなところで成長の節目というものがあったのかなど、それを友達伝いにアンケートを取るのか。

一人目に紹介して下さった方は、校内別室登校も活用されていた。市内の支援を活用されていた方の話を聞くことは、支援をしている側にも、支援の先にはこのように、立派に育っていく明るい未来があるのだということを知ることができる良い機会だと思う。

不登校の当事者や保護者の話を聞く機会というのは、とても意味があり大事なことだと思っている。聞く側には、現在悩みを抱えている保護者の層と、不登校を支援する側のNPOやボランティア、職員や教員などの層の両方がある。どちらにとっても、当時悩んだ方がどのようなプロセスを経て社会参加し、成長してきたのかという話はとても聞きごたえのある話になると思う。もちろん配慮も必要だが、フォーラムの方向性としては見えてきた感じがする。

(松山委員)

先程大野委員の話を伺って思い出したことがある。前職で研究所に勤めていた時期があり、自分のいた地域の不登校に関わる研究を少しやらせていただいた。その時に「不登校サバイバー」として、今はとてもしっかりと自立されている方のインタビューをしたことがある。どのように研究したかという、アンケート形式ではなく、インタビューによる質的データを分析した。研究の手法はそれほど重要ではないが、TEMという分析をした。何を目的にした研究だったのかという、対象者は最初に不登校になっていく過程があり、自分の不登校経験を現在は肯定的に受け止めて社会参加されている。そこがみんなの共通ゴールで、そこに至るまでにどのような道筋を辿ってきたのかをインタビューで時系列に並べて可視化するという研究だった。重要なのは、その分岐点がどこにあるのかを見ていくこと。それは、AさんBさんCさんの分岐点はそれぞれにあるが、時系列にして可視化したときに、共通項があることが見えてくる。このターニングポイントで、これが無ければそっちの方向に行った可能性があるということも含めて見ていく。その際に一つ重要だったのが、「何らかの大人との出会いがあった」ということ。

例えば、定時制高校に行ったときの教員や、それ以外にも様々な出会いがあったが、その出会いの中で「どのような言葉をかけてもらえたか」ということが非常に大きなターニ

ングポイントになっていたということが見えてきた。

また、少ししんどい時に上手く支援に繋がった分岐点があったりと、何かそのようなことが可視化して見えるという手法などもあるので、それを組み合わせたりして、どのようなところに分岐点があるのかを、聞いている方が分かりやすいように整理しておく、当事者というよりは支援者にとって良いのではないか。支援者向けのフォーラムで、不登校を経験した方のようなところにターニングポイントがあるのか、共通点や多様性みたいなものが可視化されていくと、支援をする際のヒントになると思う。そのような分析を自分がやった経験があったので、直接来られないということであれば、インタビュー形式でも非常に価値があると考えている。

(倉持議長)

その場限りのフォーラムではなく、どのようにネットワークを作っていくかを考えることが重要だと感じる。そのためには先程の現状分析や実態について伺った上で、ポイントを探る必要がある。さらに、それを「清瀬の不登校サバイバー」で実現できれば、地域の実情に即した形で行うことができるため、とても良いと思う。

やるという方向性で話が決まりそうだが、準備期間の設定も考えなければならない。先程渋谷委員の話を伺うと、4月に実施するのは難しいと感じた。そのため、9月下旬や夏休み明けの子どもたちの状況を踏まえ、夏休み期間中か9月の間に開催するのが適切ではないかと考えている。

(事務局)

次の会議が5月になるので、それまで皆様に考えてきていただきたい。

(倉持議長)

5月ということは、夏に開催しようとするので広報や呼びかけなどの関係から、5月の段階ではある程度固めておく必要がある。

先程、福祉の分野も少し広げていこうという話が出たが、学校教育についてもお互いに意見を交換できて良かった、また自分の意見も聞いてもらえたことが嬉しかったという感想が多く寄せられた。学校や教育委員会がこれほど熱心に取り組んでいることに驚いたり、逆に市民の方々がこれほど親身になって支えてくれていることに感謝したりする声もあった。このような意見を踏まえると、学校運営協議会の委員やコーディネーターにもぜひ積極的に参加してもらえると良いと感じた。

また、子ども福祉の分野では、「居場所づくり」という点で学校教育と福祉が連携できる部分があるので、こうした点についても適切に対応していくことが可能だと思う。ただし、まだ色々と調整が必要な点もあるため、引き続き協力して取り組んでいく必要がある。

(事務局)

今回の社会教育委員の会議で不登校支援ネットワークフォーラムを開催し、その後、青少協の合同講演会で齊藤前副議長が中心となり、学芸大学の宮下先生にご協力いただき、ご講演いただいた。

また、青少協の関係と児童館の事業が子ども福祉部に移管される見込みのため、今後ますます横断的な連携が必要になってくるだろう。

(倉持議長)

逆に言えば、組織改編のある時期でもあるため、最初から一緒に取り組んで進められるのは良い機会だと思う。教育委員会と市長部局が協力し、共に共催の形で進めることができれば理想的だ。

(事務局)

主に教育委員会が対応することになるかも知れないが、何らかの形でご協力はいただきたい。当課としても、福祉に関する情報を十分に得ることが難しい場合があり、特に子ども家庭支援センターなどが福祉分野の所管にある点を考えると、ますますの連携が必要だ。

(倉持議長)

保護者の支援や子どもの成長のプロセスを考えると、やはり連携しながら進める方が良いと思う。フォーラム形式で開催するとして、今までの経験を踏まえ、登壇者を3人にし、それぞれの連携協働先から登壇者を推薦してもらうのが良いのではないかと思う。

ただ、不登校経験者の話も聞きたい。やりたいことがたくさんある。自分も好きだからか、フォーラムの後半でグループディスカッションをするのが良かった。ただ話を聞くよりも、自分事としてそれぞれの経験を話したり、隣人の意見を聞くということが何らかの活動に繋がっていったり、ネットワークを作っていく上では大事だと思っているので、あの時間は残しておきたい。戦略的に協働を進めるのが良いと思う。

次回の会議では、今日いただいた意見を整理し、方向性が見えてきた内容で具体的な形を検討する。5月の会議で詳細を決定し、登壇者への打診や広報を速やかに進められるように段取りを考えたい。また、事務局には会場の確保をお願いし、謝金などの費用の出所についても検討する必要がある。

(事務局)

会場は市で確保することは可能だが、謝金などの費用に関しては準備が難しい可能性がある。そのため、ボランティアとしてご協力いただけるか打診することも検討する必要があるかも知れない。

(倉持議長)

この課題を各自持ち帰り、何か妙案があればご意見をいただきたい。

(渋谷委員)

今回は社会教育委員のフォーラムと青少協のフォーラムの開催時期が8月と11月に予定されていた関係があり、児童福祉分野の方にも登壇いただきたいという意向があったため、講師については宮下先生をお招きすることになった。例えば、それぞれの事業を統合して開催することで、謝金などの費用を青少協側でご負担いただくことはできないのか。

(事務局)

それも一つの手かも知れないが、調整できるかどうかについては繊細な交渉が必要になる。

(渋谷委員)

それぞれの事業を統合して開催することで、周知もし易いと思う。先程の松山委員のご意見を受けて、具体的な分析ではないものの、参加者が参考にできるような何かをお示しし、学校関係者も「この場面で躓きやすい」「このようなケースにはこうした状況があるので、このタイミングで適切なきっかけを作ることが重要だ」といった、気づきを得られる成果発表のようなものがあると良いと感じた。参加者や悩んでいる方々が、自分や子どもに合った居場所を見つけられる場となり、広い選択肢の中から最適な場所を自分で選択できるようなフォーラムになることが理想的だと思う。

(事務局)

青少協も地区ごとに輪番制で幹事を立てて開催しているが、去年は齊藤元副議長の担当地区が順番だった。その結果、社会教育委員の会議での議論をきっかけに青少協でも取り上げたいという意向から開催に至った経緯がある。来年度も同様の流れになるのかどうかは、青少協側の会議次第で不明だが、必ずしも詳細な分析に至らなくても、不登校の実体験について聞いて得られた情報を共有する場を設けることができれば、それは全ての参加者にとって有益なものになるのではないかと感じた。

(倉持議長)

来年度の半ばぐらいまでに進めるのは少し難しいかも知れない。ただ、発想としては、そのような支援を行った結果、どのような効果が得られるのかを知れることは、支援する側だけではなく、支援を求める側にも手応えを実感できることは、非常に素晴らしいことだと感じる。継続する意義もそうした点にあるのではないかと考えている。

また、フォーラムを継続的に開催することで、情報が集積されていくという考え方もあると思う。学校教育側では、そのような取組みを支える予算は無いのか。教育委員とも連携する形で取り組むのであれば、何らかの研修と組み合わせることで、先生方にも参加してもらいやすくなるのではないか。

例えば、コミュニティスクールの研修やコーディネーター向けの研修など、何かしらの形で連携し、相乗効果が得られるような仕組みを検討できると良いと思う。

(事務局)

当課は学校支援本部も所管している。学校支援本部で年に数回の研修会と情報交換会を開催しているが、そのようなことができる可能性もあるのかも知れない。実務担当者とその方策を探ってみたいと思う。

(倉持議長)

企画や運営を連携することで、とても充実した研修ができると思う。そのため、何回か実施する研修のうち、1回をそのような形で取り込むことを検討してみてはどうか。皆さんと意見交換を重ねることで、具体的な方策が見えてきそうな気がする。

それでは、いただいたご意見を整理し、さらに検討を進めながら、可能であれば5月の会議で具体的なプログラムを決定するところまでは進めたいと考えている。もし本日、言い忘れていることや新たに思いついたアイデアがあったら事務局までお寄せいただきたい

い。

それでは、議題の2番目「清瀬市生涯学習基本方針の更新について」ということで、事務局より願います。

(事務局)

今年度は「清瀬市生涯学習基本方針を更新する」といった大きなテーマがあり、5月の会議から多くのご意見をいただきながら協議してきた。長期総合計画や教育振興基本計画についてはようやく形となったところだ。

一方で、新しい教育大綱についても策定が進められている状況だ。このような状況により、生涯学習が対象とする分野が非常に幅広いことや、所管する課がいくつか存在することを踏まえ、地域の実情を十分に分析しながら慎重に検討を進める必要があると考えている。

そのため、これまで議論を積み重ねてきたが、もう少し時間をかける必要があるという結論に至った。来年度の会議計画にも関わるが、1年の延伸を提案させていただきたいと考えている。このような背景のもと、資料2に示した案を作成した。

この案については、次回の教育委員会で報告し承いただければと考えている。皆さんからのご意見をお聞かせいただきたい。

(倉持議長)

教育大綱およびその他の長期構想は、令和8年度から実施する。一方で、生涯学習推進計画の基本方針については、令和9年度からの実施開始となる。

(事務局)

令和8年度からの実行計画については、現在作業を進めているため、策定後の実行計画も踏まえた上で内容を取りまとめる必要があると事務局でも考えている。現行の基本方針では令和7年度までのスケジュールが示されているが、1年の延期をお願いし、令和9年度からの実施開始としたい。

(倉持議長)

例えば、私たちの更新に関する骨子の基本的な方向性については、令和9年度の実施開始なので、来年度の中頃ぐらいまでには内容を取りまとめないと事務局が更新の確定ができない。先程の会議のスケジュールを踏まえると、7月ぐらいまでには提言の形に整え、年末までにはまとめたい。そして、次年度に実施開始という形で進めたいと考えている。

来年度の教育委員との懇談会では、生涯学習の基本方針について「このような方向性で進めていこうと思う」といった話題が1つのテーマになりそうだ。大きな方向性については、5月から7月にかけて検討し、10月から11月にかけて調整する予定だ。そのようなスケジュールで延伸する方向性でどうかという意見が出ている。

会議の回数を考えるとあまり余裕は無いが、1年の延伸を提案しているので、現行計画では令和7年度までを予定していたところを、さらに1年延ばし、その期間を活用して新しい総合計画や教育大綱、現状などを十分に踏まえた上で、より実態に即した計画にしようという意向がある。この点についてご意見を伺いたい。

(事務局)

現在、これまでの会議で皆様からいただいたご意見や、改めて議論された内容をまとめているところだ。まとめが完了次第、次回の会議が始まるまでに皆さんに共有をさせていただきたいと思っている。

現行の基本方針に関しては「各世代に応じた学びをする」と謳われているが、「世代を超えた繋がりや学び合い、交流」といった要素が十分に盛り込まれていないのではないかというご指摘が、初期段階から寄せられていた。そのため、これらの点をより深化させた内容にしていきたいと考えている。

また、清瀬市の現状や課題について、これまでにいただいたご意見を大きく3つの視点に分けて整理している。

1点目は「生涯学習施設」について。市民からは施設の充実を求める声が多く、世論調査や各種アンケートでもその傾向が確認されている。これらはハード面だけに留まらず、ソフト面も含めた幅広い要望が見られる。そのため、市民が具体的に何を求めているのか、しっかりと把握した上で検討する必要があるという意見も挙がっている。

2点目は「学校と地域の関係」について。この点については不登校支援の話とも関わってくるのかも知れない。現在PTAの縮小やコミュニティスクールの導入が進み、学校の組織や支援体系に大きな変化が生じている。これに伴い、子どもを取り巻く環境の変化が、保護者や地域にも影響を与えている。学校を地域の核として捉えた場合、地域との繋がりや活発な交流を動的に構築していけるのだろうかといった課題が指摘されている。

3点目は「地域活動」について。学校に限定しない地域全体における活動がテーマとなる。様々な地域活動が行われているが、参加を希望しても「どのように参加すれば良いのか分からない」といった繋がり不足が課題になっている。特に高齢者主体のサークル活動が中心となっているケースが多いため、幅広い世代が関わられるような仕組みや機会の創出が求められているという意見も多く見受けられた。今後、新しい基本方針を策定するにあたり、生涯学習を「市民の生きがい」「自己実現のニーズを満たすもの」として位置づけることに加え、学びにより地域の繋がりを作ったり、地域で何かを担ったりすることを強調していくのか。または、地域の特色を最大限に活かして、どの点を重要視していくかによって、表現の仕方や計画の方向性が変わってくるという意見もあった。

これらの点を踏まえ、より具体的な方針や計画づくりを進めたいと考えている。

(倉持議長)

現在、国でも社会教育の在り方が中教審などで検討されている。来年度の中頃には答申が出ると言われているので、生涯学習としてはそのような状況も踏まえ1年延伸したいと考えている。概要をまとめた論点なども上手く取り込んだ形にしたいがいかがか。

反対意見が無いようなので延伸させていただき方向を進めたい。また、その他ご意見等があれば、それらご意見も取り込みたいと思っている。

(事務局)

今日の資料では、教育大綱の草案や教育振興計画の素案、長期総合計画についても配布している。特に生涯学習に関連する分野の箇所について一読いただき、次回の会議でご意見をいただきたい。なお、これらの資料は現時点で完成版ではなく、いくつか手直しが入ると思われるが、現状ではこのような体系で進めていると担当者から伺っている。

(倉持議長)

その他何かご意見等はあるか。

それでは、令和7年度第6回清瀬市社会教育委員の会議は以上とする。